

LPガスCP速報(2022年4月積)

1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **940** ドル (前月比+45 ドル)

ブタン **960** ドル (前月比+40 ドル)

① LPガススポット市況等

ロシアのウクライナ侵攻の影響で原油市況が、2008年8月以来の高値を更新するなか、LPガス市場をみると、欧州ではエネルギー市況が乱高下も需要は堅調、需給タイトで高値基調が続いており(プロパン、ブタンCFR900 ドル を挟み振幅が大きい上昇基調)、中東市場への影響が懸念された。アジア市場は、中国PDH、韓国、台湾の石化需要が堅調、供給はサウジの出荷基地メンテナンスが長引き出荷が抑えられたもののカタール、アブダビがスポット販売するなど需給に不安はない。極東CFRは、第4週プロパン950 ドル 、ブタン960 ドル どころ、原油・ナフサ高からブタン高が顕著になった。

米国では、プロパン需要、輸出ともに堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は2週連続で増加したものの、低水準の前年同期比の86%に止まり、5年平均レンジを下回っている(グラフ②はメキシコ湾)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油急騰を受け、上旬に841 ドル まで急騰したが、中旬には原油市況反落で650 ドル を割り込むなど乱高下した。MB月間平均は前月比87 ドル 上昇の765 ドル どころ(グラフ①)。パナマ運河滞船日数増でカナダ、米西岸出荷のカーゴが注目されている。

フレート市況は、反騰した。インド勢の引き合いもあり大幅続伸、中旬には船舶需給が緩み軟化した。バンカーオイルの急騰やスポット追加販売もあり下支え。米国FOB価格と極東・欧州着価格の売差が採算ベースを維持、キャンセルもなく、フレートは堅調に推移した。

ナフサは原油価格に連動し急騰、2日には1,000 ドル を突破し、月間平均は2012年4月以来高値の1,013 ドル どころで、前月比158 ドル の大幅続騰、ブタン高の背景となった。

バンカーオイルは原油市況に追随して大幅続騰、シンガポールIFO380は月間平均で前月比125 ドル 高の657 ドル 、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同249 ドル 上げの1,080 ドル どころ、両油種の格差は、ガスオイル急騰を受け423 ドル に拡大した。

4月CPは前年同月比プロパン380 ドル 、ブタン430 ドル それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン15、ブタン16ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン4ポイント低く、ブタン4ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	48	65	62	60	59
CP先物指標:P	940	880	855	935	903
CP先物指標:B	945	900	870	950	916

② 原油市況等

3月の原油市況をみると、ウクライナ危機によりWTIは100 ドル 突破でスタート、対ロシア経済制裁措置の実施で7日には一時130 ドル まで急騰したが、イラン核合意への期待、中国のコロナ対策のロックダウン実施などを受け、15日には100 ドル を割り込んだ。一方、OPECプラスの増産計画が目標を下回り(2月協調減産遵守率136%)、IEAは4月以降ロシア産原油石油製品300万b/d程度が市場から喪失すると予測、需給逼迫感が強まった。更に、カザフスタン原油の黒海からの出荷が滞り(CPCのターミナルが暴風雨で被害)32万b/dの減産を余儀なくされたほか、イエメンフーシ派のサウジ攻撃などもあり、市況乱高下の要因となった。

EUはロシアエネルギー依存脱却を模索、中期的な需給逼迫は避けられず、20 ドル 以上に達しているとみられている地政学プレミアムは、いつ解消できるのだろうか。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~30日までの想定)は113.80 ドル (前月比+19.45 ドル)

熱量等価AL100% プロパン933.04 ドル/トン ブタン920.24 ドル/トン

AL比 プロパン100.75% ブタン104.32%

*上記ALはEIN推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

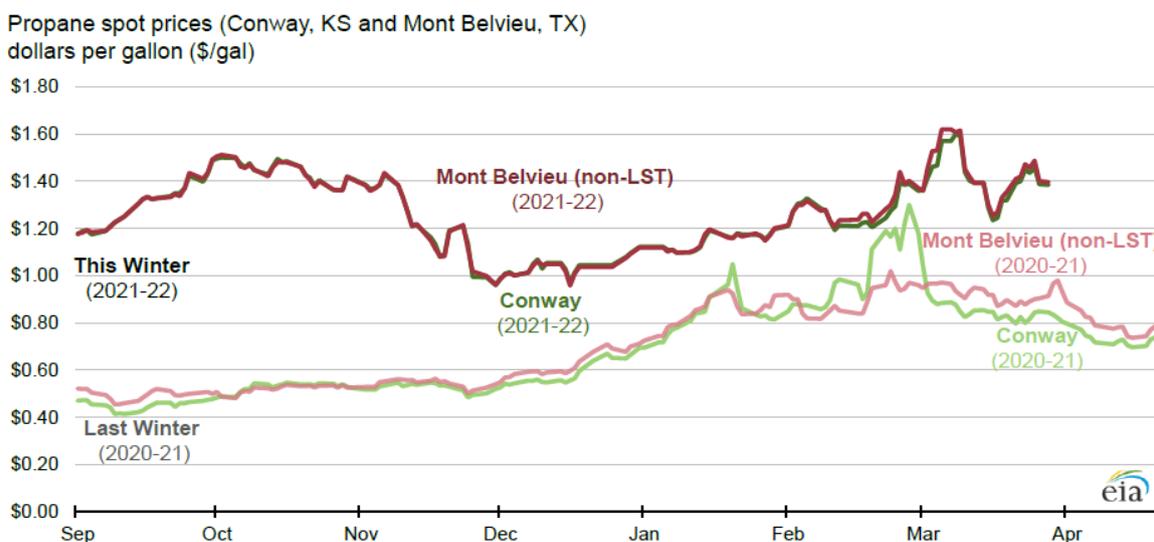
2. 2022年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	117.21	113,600	117,800	+10,600	+12,000
②末日締め	119.53	115,300	119,900	+12,400	+14,000

*TTS平均について、①が2月21日～3月20日、②3月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

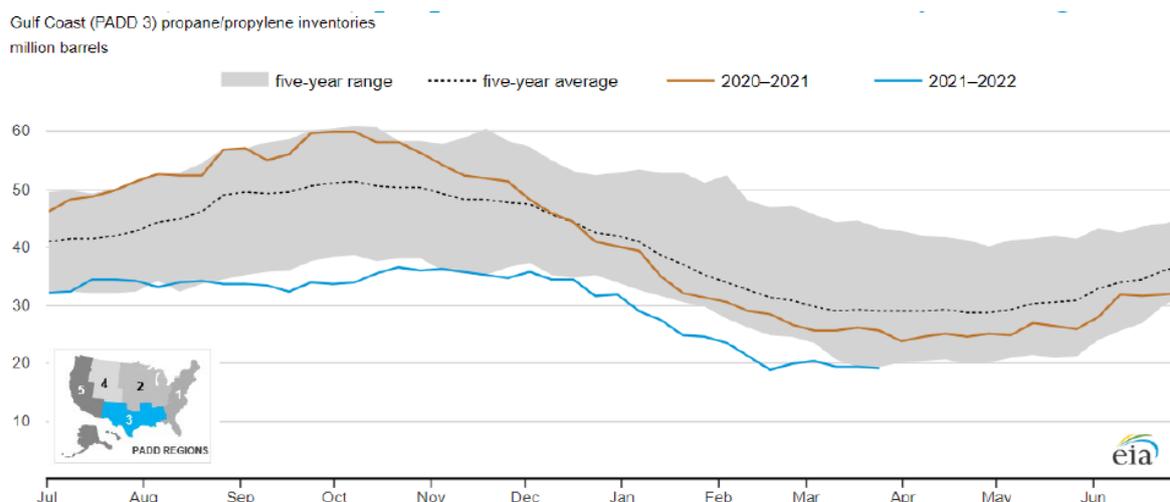
なお、上記MBは3月29日までの価格を基にEINで試算（755ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



Source: Graph created by the U.S. Energy Information Administration, based on data from Bloomberg, data through March 29, 2022

②米メキシコ湾岸プロパン在庫推移



Source: U.S. Energy Information Administration, *Weekly Petroleum Status Report*, March 30, 2022
Note: PADD 3 is composed of Alabama, Arkansas, Louisiana, Mississippi, New Mexico, and Texas.
data through March 25, 2022

*includes propylene stocks at refineries